

「認知症の方が講演なされるって？ 不思議」

上田 由起子

診療所勤務

ぬっきー先生、認知症を患ったご本人がご講演をしてくださったということに感謝申し上げたいと思います。

このような状況を見ず知らずの不特定の人前でオープンにするということは、なかなかできることではないと思います。自分だったら逃げ隠れ、クローズな状態になるに違いありませんので素晴らしいことだなあと思いました。

そして、認知症の方がご講演をされる、ということがとても不思議でしたし、今でも、正直申し上げれば、え？認知症ってこんなに治るものなの？どういう疾患なの？と疾患を人間の脳の奥深さや神秘を感じ、生命の謎を感じております。

ぬっきー先生がお話の中で、地域に支えてもらった、というようなことをおっしゃっていましたが、それは普通のことのようで、実情は、そう充実してうまく稼働している地域は多くはないのではないかと思います。

認知症になっても、ほかの疾患を患っても、高齢になっても、障害者になっても、それまで通りに近い状況で生活ができることが理想的なことだと思います。周りも本人も、そう変わることなくそれまで通り。そして安心して暮らせる、そしてそのことを若くて元気な時から思える地域、そんな地域に皆住んでいたいと思うでしょう。

自分も何年かのうちに認知症になるかもしれません、そのことを思うとやはり不安です。

しかし、支えてくれる地域があればなんとかなるのかなとぬっきー先生のお話から感じたりもして。

いつしか、日本中が、認知症の心配なんてしなくて大丈夫！！どんな状態になっても大丈夫！！といえるようになってほしいですし、そのためには、今自分が地域で何をしていくべきか、ということを考えさせていただくこととなり、少し認知症を前向きにとらえられそうです。勇気をいただきありがとうございました。